

削減型生ごみ処理ボックス

「キエーロ」



キエーロとは、電力を使わずに生ごみを土の中のバクテリアの力で分解する減量化容器のことです。

臭いや虫の発生が少なく、手間もかからないことから、全国的に注目されています。

市では、地元の方から寄附いただいたキエーロ1号、2号で実証実験を行いました。



「キエーロ」の使い方

①生ごみを入れるため深さ20cmほどの穴を掘ります。

☆穴を掘って出た土は、表面の乾いている土と中の湿った土を分けて穴の横に置く。



②1回の投入量はおよそ500gが目安です。



③野菜などは、分解しやすいように細かく切るように突き刺しながら、水0.5lと土をよくかき混ぜる。

☆ほど良い水加減は土だんごが作れるくらいの固さ



④最後に横に置いていた表面の乾いている土をかぶせ平らにしておく。

☆シャベル等を目印にすると次に掘る場所がわかりやすい。



⑤屋根を閉めて分解を待つ。

⑥12日後生ごみは消えました。



実験してわかったこと

- 悪臭や虫の発生はなかった。
- 厚みのあるものは細かく刻み、全体に空気が入るようによくかき混ぜて分解を促進する。
- 土は中が湿っていて表面が乾いている状態が良い。中が乾いたら土団子が作れる程度まで水を加える。
- 生ごみを分解するバクテリアの活動には、適度な温度が必要で分解に夏期は3日から5日。冬期は10日から2、3週間かかる。※腐敗した状態で投入すると分解は早い。
- 分解しにくいものがあることがわかった。
分解しやすいもの…ご飯、麺類、魚、肉、ハム、納豆、ヨーグルト、野菜、食用油など
分解しにくいもの…野菜の芯、皮、果物の皮、鶏の骨、卵の殻、玉ねぎの皮など
- 生ごみが分解されたあとの土は養分を含んでおり、堆肥として使える。